

2024年3月期 第2四半期 決算ハイライト

ティアック株式会社
<https://www.teac.co.jp/jp/>
証券コード：6803

2023年11月2日

2024/03期 Q2累計 業績概要

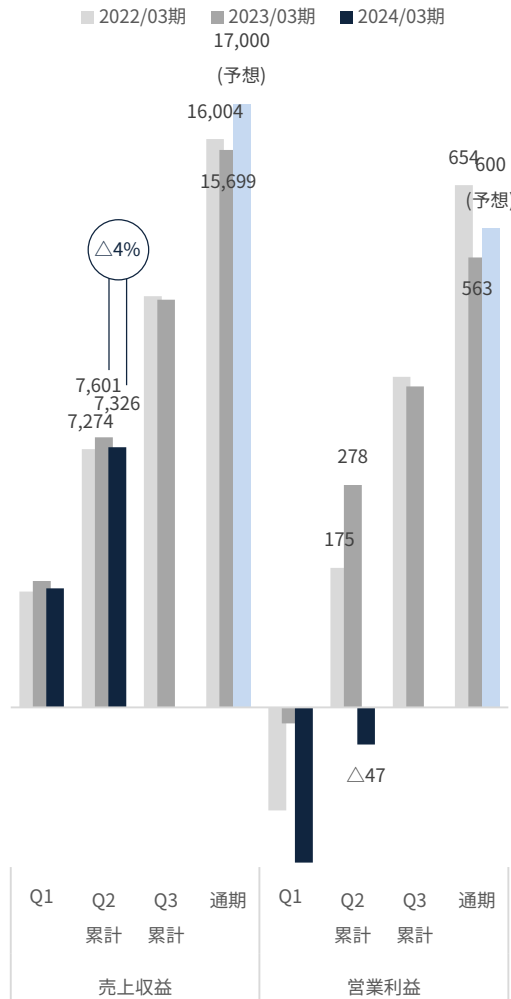
■ 2024/03期 第2四半期累計は、前年同期比減収減益（損失計上）

	2023/03期		2024/03期		前年同期比	(百万円)
	Q2累計	Q1	Q2	Q2累計		
売上収益	7,601	3,349	3,977	7,326	△ 275 (△ 3.6%)	<ul style="list-style-type: none"> 音響機器事業は前年同期比10%成長。他方、情報機器事業にて半導体装置案件が一服、またその他事業も中期経営計画に沿い縮小中のため、全社は前年同期比減収
営業利益（△損失）	278	△ 194	148	△ 47	△ 325 (-)	<ul style="list-style-type: none"> 第2四半期単独（7-9月期）は営業利益計上も、第1四半期の損失挽回に至らず、第2四半期累計は営業損失を計上。前年同期比減益
税引前利益（△損失）	34	△ 389	32	△ 357	△ 390 (-)	<ul style="list-style-type: none"> 200百万円の為替差損が発生し前年同期比減益（損失計上） <ul style="list-style-type: none"> - 詳細は「金融費用（為替差損）の計上に関するお知らせ」（2023年11月2日発表）をご参照ください
四半期利益（△損失）	31	△ 400	32	△ 368	△ 399 (-)	<ul style="list-style-type: none"> 第2四半期単独は黒字化も、第2四半期累計は前年同期比減益（損失計上）
資本合計	3,003			3,129	+ 126 (+ 4.2%)	<ul style="list-style-type: none"> 前年同期比増
自己資本比率	25.9%			27.0%	+ 1.1ppt	<ul style="list-style-type: none"> 前年同期比増
フリー キャッシュフロー	△ 535			△ 266	+ 270	<ul style="list-style-type: none"> 前年同期比増も、損失計上により営業キャッシュフローはマイナス

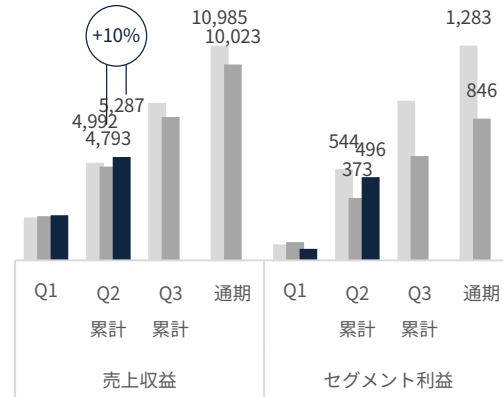
2024/03期 Q2累計 セグメント別業績

(百万円)

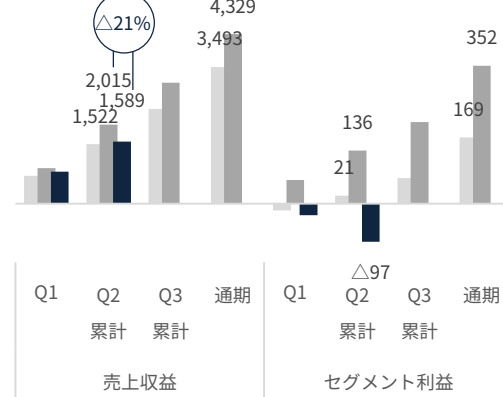
売上収益・営業利益



音響機器事業 売上収益・セグメント利益



情報機器事業 売上収益・セグメント利益



その他

・ ハイエンドオーディオ機器 (ESOTERICブランド)

- 前期に上市したSACDプレーヤーやターンテーブル、8月上市のクロックジェネレーターの販売が好調に推移。国内の新型コロナウイルス感染症規制解除によるインドア消費減や猛暑での販売不振を欧州での伸長分でカバーし、全体では前年同期比増収

・ プレミアムオーディオ機器 (TEACブランド)

- 国内においては4月に上市したCDプレーヤーが堅調に推移し、また前期に上市した輸入スピーカーが貢献して増収も、米国、アジア地域の販売が伸び悩み、全体では前年同期比減収

・ 音楽制作・業務用オーディオ機器 (TASCAMブランド)

- BtoB事業においては設備市場向け製品の販売が堅調に推移したに加え、業務用デジタルミキサーが海外を中心に好調。BtoC事業においては、出荷を開始したクリエイター向けレコーダーの新製品効果もあり海外を中心に好調。その結果、音楽制作・業務用オーディオ機器全体では前年同期比増収

・ 計測機器

- データレコーダーにおいては、鉄道を中心に移動体向けの出荷が好調に推移。特に新型高速鉄道向けの多チャンネル計測は今後の成長が期待できる分野。センサーおよびデジタル指示計においては、リチウムイオン電池製造装置向けなど新たに開拓した分野が好調に推移したものの、半導体装置市場の需要が大きく減少したことから、計測機器全体では前年同期比減収

・ 医用画像記録再生機器

- 国内市場においては消化器内視鏡向けレコーダーの出荷が減少したが、手術画像記録用レコーダーのフラッグシップモデルである4Kレコーダーが好調であったことから堅調に推移。海外での販売は米国・欧州共に好調を維持し、同部門では前年同期比増収

・ 機内エンターテインメント機器

- 国内エアラインへの導入が進み顧客数も増加し、保守費、消耗品販売、コンテンツ供給などストック収益モデルの構築が進むも、海外顧客向け保守部品販売が前期で終了したことから前年同期比減収

・ ソリューションビジネス

- 受託開発案件の受注が低調であったこと、また前期好調であった医用向けサーバーの受注が減少したことから前年同期比減収

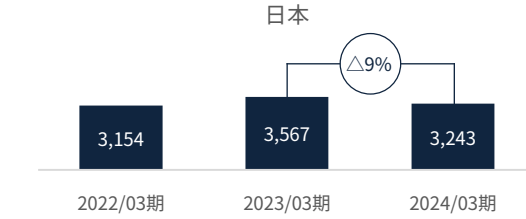
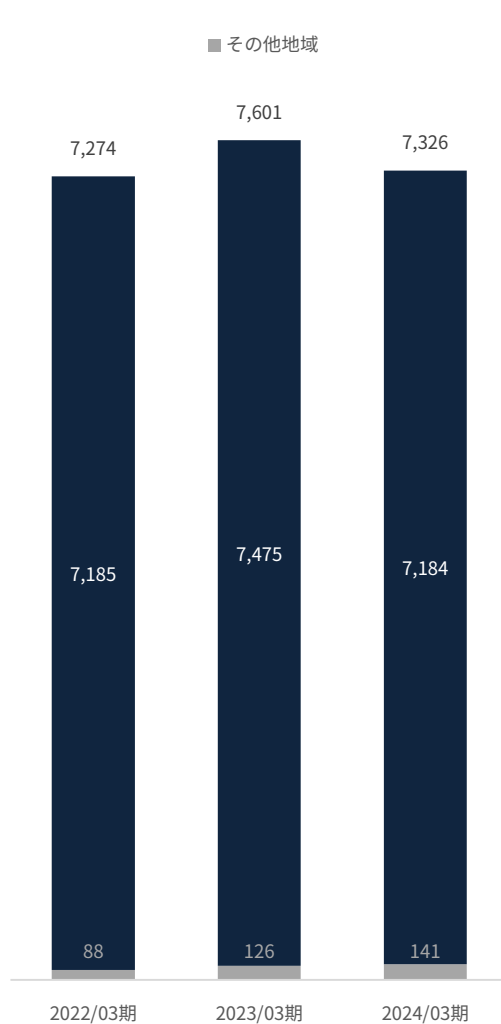
- 前年同期比減収減益

注： 2023/03期より産業用光ドライブ事業の報告セグメントを「情報機器事業」から「その他」へ変更。上記では、過年度実績対比を目的とし2022/03期についても産業用光ドライブ事業は「その他」を含む

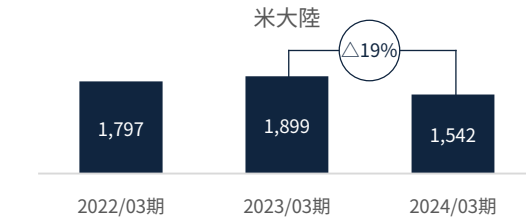
2024/03期 Q2累計 地域別業績

(百万円、+は前年同期比増収、-は同減収)

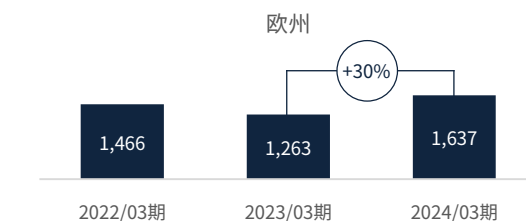
Q2累計 売上収益



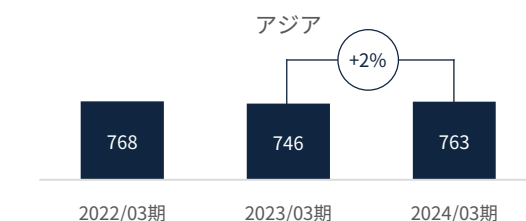
- 音響機器事業
 - + プレミアムオーディオ機器、業務用オーディオ機器 (BtoB)
 - ハイエンドオーディオ機器、音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)
- 情報機器事業
 - + 機内エンターテインメント機器
 - 計測機器、医用画像記録再生機器、ソリューションビジネス



- 音響機器事業
 - + 業務用オーディオ機器 (BtoB)
 - ハイエンドオーディオ機器、プレミアムオーディオ機器、音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)
- 情報機器事業
 - + 医用画像記録再生機器
 - 計測機器、機内エンターテインメント機器 (保守用部品)



- 音響機器事業
 - + ハイエンドオーディオ機器、プレミアムオーディオ機器、音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)、業務用オーディオ機器 (BtoB)
 -
- 情報機器事業
 - + 計測機器、医用画像記録再生機器
 -



- 音響機器事業
 - + ハイエンドオーディオ機器、音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)、業務用オーディオ機器 (BtoB)
 - プレミアムオーディオ機器
- 情報機器事業
 - + 計測機器、医用画像記録再生機器
 -

註： 2023/03期より産業用光ドライブ事業の報告セグメントを「情報機器事業」から「その他」へ変更。上記では、過年度実績対比を目的とし2022/03期についても産業用光ドライブ事業は「その他」を含む

2024/03期 Q2累計 セグメント別・地域別構成比

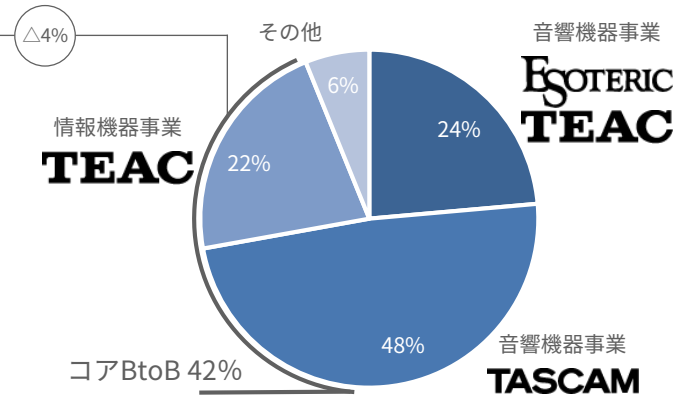
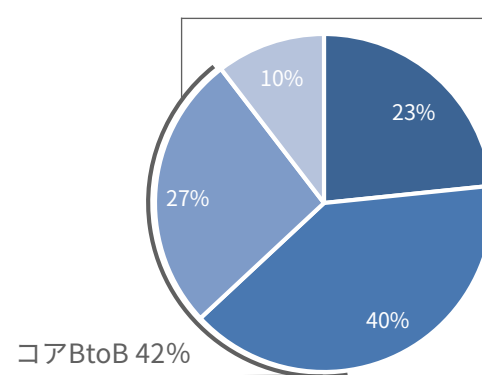
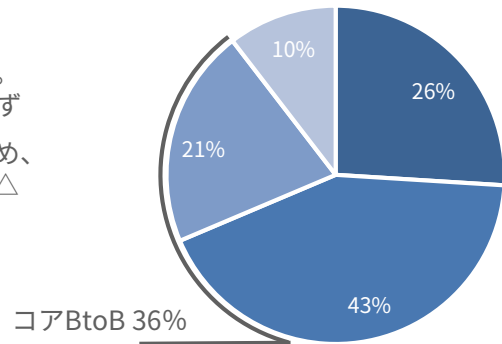
2022/03期 Q2累計 売上収益
7,274百万円

2023/03期 Q2累計 売上収益
7,601百万円

2024/03期 Q2累計 売上収益
7,326百万円

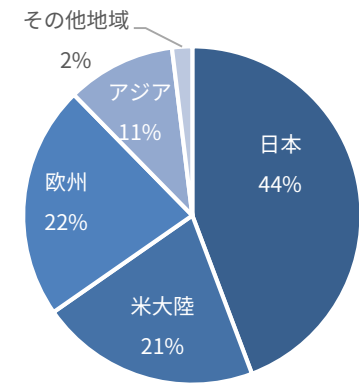
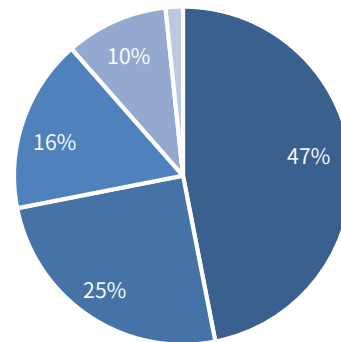
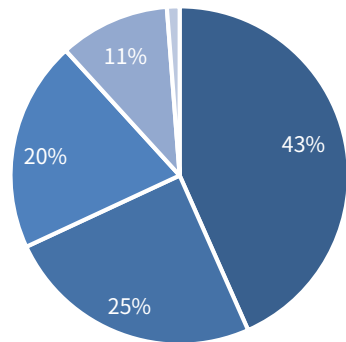
■ セグメント別

- BtoB事業は△ 4%減収。構成比は42%で変わらず
- 事業の選択と集中を進め、その他事業の構成比は△ 4ppt減



■ 地域別

- 欧州は前年同期比+30% 大幅増収により構成比も + 6ppt増
- 米大陸は、その他事業の縮小影響により構成比が △ 4ppt減

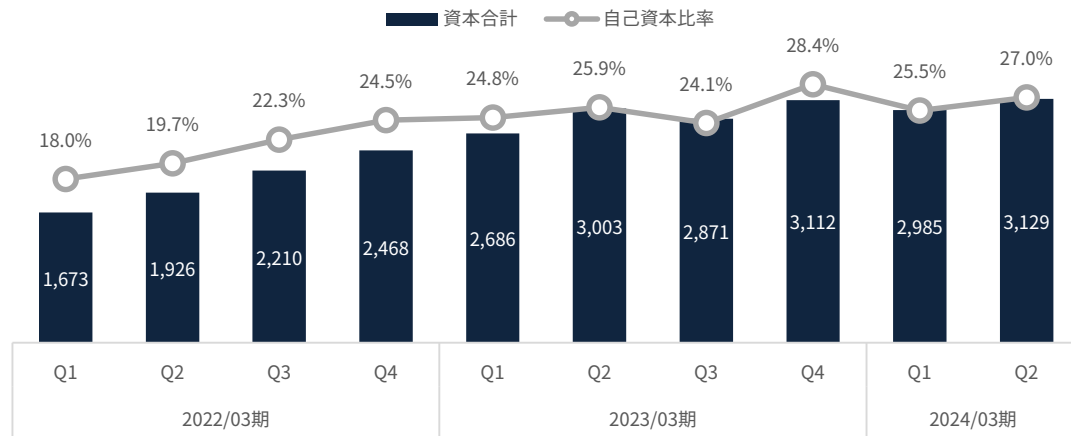


註： 2023/03期より産業用光ドライブ事業の報告セグメントを「情報機器事業」から「その他」へ変更。上記では、過年度実績対比を目的とし2022/03期についても産業用光ドライブ事業は「その他」に含む

2024/03期 Q2累計 自己資本比率・フリーキャッシュフロー

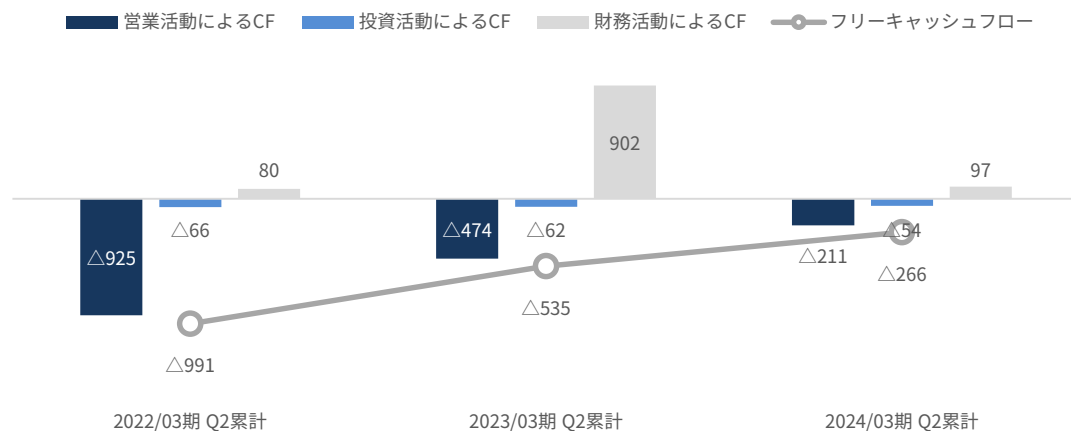
(百万円)

自己資本比率



- 資本合計：前年同期比+ 126百万円 (+ 4.2%) 増、前期末比+ 17百万円 (+ 0.6%) 増
- 自己資本比率：前年同期比+ 1.1ppt増、前期末比△ 1.4ppt減

フリーキャッシュフロー



- フリーキャッシュフロー：前年同期比+ 270百万円良化も△ 266百万円のマイナス

■ 2024/03期 通期予想は、前回予想（2023年5月発表）を据え置く

	2023/03期	2024/03期 予想	前期比	
売上収益	15,699	17,000	+ 1,301 (+ 8.3%)	<ul style="list-style-type: none"> 新製品の適時導入と製品ポートフォリオ再編の加速、当社が比較優位性を持つ製品の価格改定の実施、主要市場における販売体制の再構築を進め増収を計画
営業利益	563	600	+ 37 (+ 6.5%)	<ul style="list-style-type: none"> インフレ、投資停滞、流通在庫の滞留などのリスクに対応すべく、デジタルとリアル両面でマーケティング投資増を計画
税引前利益	341	400	+ 59 (+ 17.2%)	<ul style="list-style-type: none"> 増益計画
当期利益	305	320	+ 15 (+ 4.8%)	<ul style="list-style-type: none"> 増益計画
資本合計	3,112	-	-	
自己資本比率	28.4%	-	-	
フリー キャッシュフロー	+ 192	-	-	

(百万円)

■ 音響機器事業 プレミアムオーディオ機器

- 独自の進化を続けるESOTERICのフラッグシップ、Grandioso デジタルプレーヤー P1X、D1X、K1Xに更なる高音質を追求した『SE』モデルが登場



ESOTERIC Grandiosoシリーズ / avantgarde TRIO

- ESOTERIC 世界戦略シリーズとなる05シリーズにデジタルプレーヤーから更なる音楽表現力を引き出すクロックジェネレーター『G-05』が登場



“The Ultimate Five” ESOTERIC 05シリーズ / avantgarde UNO SD

■ 音響機器事業 音楽制作・業務用オーディオ機器

- 2023年9月にアムステルダム（オランダ）にて開催された欧州最大規模の業務用映像・音響の展示会「IBC 2023」に出展

業務用デジタルミキサー『Sonicviewシリーズ』および業務用オーディオネットワーク伝送規格Danteに対応したステージボックス『SB-16D』を中心に展示。放送業界の新スタンダードと期待される映像・音声ネットワーク伝送規格SMPTE ST2110の対応も、オプションカードの来夏のグローバル出荷に先駆け告知。



■ 情報機器事業 医用画像記録再生機器

- 『UR-NEXT 4K』に新機能を追加、手術映像管理ソリューション『SURGEONE v2』も欧州初導入を実現し本格的なグローバル展開を開始

メディカルビデオレコーダーのフラッグシップモデルである『UR-NEXT 4K』の機能向上が完了。4K/60fpsの基本性能に加え、2CH同時記録、4K-3D記録、プロキシ記録（4K+HD）、院内セキュリティー対応など、世界中の手術室での画像記録に求められる機能を追加実装。

また、手術映像管理ソリューション『SURGEONE v2』をスペインの病院に導入。非英語圏では初の導入実績となり、今後更なる多言語対応を進め『UR-NEXT 4K』と共に、BOX+SOLUTIONによるニッチトップ戦略としてのグローバル展開を推進する。



『UR-NEXT 4K』

『SURGEONE v2』

財務データシート (IFRS)

		2022/03期				2023/03期				2024/03期						
		(百万円)	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4		
貸借対照表	流動資産		7,180	7,723	7,939	8,210	9,042	9,886	9,259	8,351	9,027	8,930				
		現金及び現金同等物	1,440	955	789	1,304	1,353	1,739	1,221	1,196	1,553	1,086				
		営業債権及びその他の債権	2,167	2,750	2,877	3,154	2,799	2,871	2,809	2,925	2,671	2,938				
		棚卸資産	3,211	3,651	3,893	3,400	4,566	4,998	4,877	3,862	4,512	4,638				
		その他の流動資産	362	366	381	352	324	278	352	368	291	269				
		非流動資産	2,119	2,043	1,955	1,870	1,804	1,720	2,634	2,607	2,673	2,663				
		資産合計	9,299	9,766	9,894	10,081	10,845	11,606	11,893	10,958	11,700	11,594				
		流動負債	5,833	5,845	5,822	5,852	6,266	6,430	6,161	5,316	6,242	6,018				
			社債及び借入金	2,571	2,588	2,574	2,467	2,904	3,030	2,900	2,042	2,749	2,663			
			リース負債	352	368	371	312	232	164	264	448	519	357			
			営業債務及びその他の債務	1,651	1,559	1,557	1,458	1,759	1,798	1,646	1,281	1,615	1,566			
			その他の流動負債	1,258	1,329	1,320	1,615	1,371	1,439	1,351	1,544	1,358	1,432			
		非流動負債	1,794	1,995	1,862	1,761	1,893	2,172	2,861	2,531	2,474	2,446				
			社債及び借入金	332	697	686	619	820	1,189	1,113	1,083	977	829			
			リース負債	259	167	92	68	64	42	870	685	790	913			
			長期未払金	1,096	1,044	991	920	833	793	729	622	626				
			その他の非流動負債	106	86	93	154	177	149	149	75	86	79			
	負債合計	7,627	7,839	7,685	7,613	8,160	8,603	9,022	7,847	8,715	8,465					
	資本合計	1,673	1,926	2,210	2,468	2,686	3,003	2,871	3,112	2,985	3,129					
		親会社の所有者に帰属する持分合計	1,673	1,926	2,210	2,468	2,686	3,003	2,871	3,112	2,985	3,129				
		非支配持分	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
	負債及び資本合計	9,299	9,766	9,894	10,081	10,845	11,606	11,893	10,958	11,700	11,594					
	親会社所有者帰属持分比率	18.0%	19.7%	22.3%	24.5%	24.8%	25.9%	24.1%	28.4%	25.5%	27.0%					
損益計算書	売上収益	3,263	4,011	4,304	4,426	16,004	3,557	4,044	3,879	4,219	15,699	3,349	3,977	7,326		
		音響機器事業	2,193	2,798	3,058	2,935	10,985	2,262	2,531	2,537	2,693	10,023	2,313	2,974	5,287	
		情報機器事業	710	813	895	1,076	3,493	907	1,108	1,075	1,238	4,329	815	774	1,589	
		その他	360	400	352	415	1,527	388	405	267	288	1,347	221	229	450	
		セグメント利益	115	533	474	501	1,623	226	485	345	398	1,453	75	385	460	
			音響機器事業	97	448	410	329	1,283	109	265	249	224	846	69	427	496
			情報機器事業	△17	38	45	103	169	60	76	72	144	352	△29	△68	△97
			その他	36	47	20	69	171	57	144	24	30	255	35	26	61
		個別開示項目前営業利益	△129	304	239	240	654	△20	299	123	162	563	△194	148	△47	
		個別開示項目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		営業利益	△129	304	239	240	654	△20	299	123	162	563	△194	148	△47	
		税引前利益	△167	219	198	231	481	△104	138	182	126	341	△389	32	△357	
		親会社の所有者に帰属する当期利益	△174	210	187	168	392	△109	140	150	124	305	△400	32	△368	
	キャッシュフロー	営業活動によるキャッシュフロー	△174	△751	△36	808	△153	△485	11	△204	972	294	△113	△98	△211	
		投資活動によるキャッシュフロー	△56	△10	△20	△50	△136	△23	△38	△29	△12	△102	△36	△18	△54	
		財務活動によるキャッシュフロー	△203	283	△126	△253	△299	550	352	△242	△992	△333	446	△349	97	
		フリーキャッシュフロー	△230	△761	△56	758	△289	△508	△27	△233	960	192	△149	△116	△266	

注： 2023/03期より産業用光ドライブ事業の報告セグメントを「情報機器事業」から「その他」へ変更。上記では、過年度実績対比を目的とし2022/03期についても産業用光ドライブ事業は「その他」を含む

この資料に記載されている記述のうち、将来見通しに関する記述は、当社の現時点での入手可能な情報に基づいている為、既知または未知のリスクおよびその他の不確定要因が内在しており、実際の業績はこれらの業績見通しと大幅に異なる可能性があります。実際の業績に対し影響を与えるリスクや不確実な要素としては、主要市場（日本、北米、欧州、アジアなど）の経済状況・需要動向、同市場における貿易規制等各種規制、ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、部品・原材料の供給、物流網の安定性、急激な技術変化、などがありますが、業績に影響を与える要素としてはこれらに限るものではありません。